トビタテ！留学JAPAN
～日本代表プログラム～
第11期募集説明会

2018年12月12日
留学支援共同利用センター

トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラムの目標

文部科学省初の官民協働プロジェクト
による支援

学生日本代表を
海外へ派遣　**10,000人**

民間からの寄附　**200億円**

※2020年までの目標

産学官の出身者から構成される
協働プロジェクトチームが事業を推進

トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラムの目的

主

“産業界を中心に社会で求められる人材”
“世界で活躍できる人材”の育成

副

学生の海外留学を促進するという観点から、
各領域でリーダーシップを発揮する多様な
人材を支援し、海外留学の機運を高める

トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム４つの特徴

従来の派遣留学制度とは異なる
多方面でのサポート体制を整備

①“幅広い留学”（海外体験）を対象

②事前・事後研修の提供

③派遣留学生コミュニティ

④充実した奨学金等

①"幅広い留学"（海外体験）を対象

大学での修学に限らない
多様な実践活動を支援

本プログラムの支援対象

学生等が立案・作成した留学計画を支援

"実践活動"を焦点とした留学
（海外インターン,海外ボランティア活動 PBL,フィールドワーク等）

単位や学位認定の必要なし
(大学が学修活動と認めた活動)

トビタテ！一期生の活動例

起業してスティーブ･ジョブスのようなイノベーターになる
↓
スタンフォード大学で研究＆シリコンバレーでインターン

少数民族と女性のエンパワメントの可能性を探る
↓
バングラデシュで国連インターン

②事前・事後研修の提供

留学に対する準備とフォローを行うことで、
留学における効果の最大化を図る

事前研修	事後研修
留学目的を事前に明確化し 留学の効果を最大化する	**留学で得たことを生かす ためのフォローアップ**
将来のグローバルリーダーとしての動機付け	活動成果の発表
留学目的・計画の明確化	留学体験の振り返りと 今後の学生生活への接続

※事前・事後研修の内容や講演などの映像をトビタテ公式HPから確認できます。「トビタテ！研修オンライン」にて。

③派遣留学生コミュニティ

独自のコミュニティを形成し、
種々の交流機会を創出する

・交流会、勉強会
・インターン案内等

④充実した奨学金等

充実した奨学金を採択者へ給付

国費留学プログラム		日本代表プログラム
【月額】 月額6～10万円	⇔	【月額】 月額12万、もしくは16万円 ※所得制限を超える学生は一律6万
【留学準備金】 無し	⇔	【留学準備金】 往復渡航費等の一部 （アジア地域15万円、それ以外25万円）
【授業料】 無し	⇔	【授業料】 大学、大学院での授業料の一部 （支援期間1年超60万円、1年以内30万円）

トビタテ生として重要な３つの役割

留学の段階に応じた役割を採択者に期待

留学前

- **Global Leader**
  留学を通じて最大限に成長し、
  将来の「グローバルリーダー」を目指す

留学中

- **Ambassador**
  留学期間中は、「日本のアンバサダー（大使）」
  として日本の良さを発信する

帰国後

- **Evangelist**
  留学生増加のため「留学のエヴァンジェリスト（伝道師）」として活動する

６つのコース

トビタテ！留学JAPAN

留学の裾野を拡げるために多様なコースを準備

- 理系、複合・融合系人材コース
- 新興国コース
- 世界トップレベル大学等コース
- 多様性人材コース

＋

- 地域人材コース
- 高校生コース

大学生等4,140名が日本代表に選抜

・1期生：323名（106校）
・2期生：256名（110校）
・3期生：404名（113校）
・4期生：437名（141校）
・5期生：513名（136校）
・6期生：507名（138校）
・7期生：608名（160校）
・8期生：458名（133校）
・9期生：634名（160校）

理系、複合・融合系人材コース

日本再興戦略や産業界のニーズに合った
理系分野における留学を支援。
先端領域における研究等特徴のある取組を支援。

学修活動や、インターンシップ、フィールドワーク、実験・実習等の実践活動
特に、**<u>環境・エネルギー分野、ライフサイエンス分野、情報通信技術分野、農林水産分野、ものづくり分野</u>**において新産業創出につながるような取組や活動を行う留学を支援します。

※ 理系分野、複合・融合系分野で新興国、世界トップレベル大学等に留学するプランはこのコースで応募。

※ 「未来テクノロジー人材枠」で応募を検討している場合は一度留学支援共同利用センターにお問い合わせください。

新興国コース

今後成長が期待される新興国（アジア等）への留学を支援。

新興国において学修、インターンシップ、フィールドワーク等

＜想定される国、地域（例）＞
東南アジア（ASEAN）諸国、南アジア（SAARC）諸国、中東諸国、
アフリカ諸国、中南米諸国等

※留学計画の過半の期間、新興国において活動すること。
※人文・社会科学系分野が対象。
※理系分野・複合・融合系分野での新興国への留学、世界トップレベル大学等に留学するプランは理系、複合・融合系人材コースで応募。

世界トップレベル大学等コース

世界大学総合ランキングで上位100位以内に位置する等、諸外国におけるトップレベルの大学などで、世界中から集まった優秀な学生とせめぎあいながら、高度な教養や専門性を身につけることを目的とした留学を支援。

学修、研究、インターンシップ、フィールドワーク等

※人文・社会系分野が対象。
※大学の場合には、通常の講義（語学は除く）に出席し、単位が修得できること。
※採用後に計画変更する場合、応募時に留学計画書に記載した第2希望、第3希望の大学等以外への変更はできません。
※ランキングは総合ランキングのみ。国別、分野別は適用できません。
※理系分野・複合・融合系分野での新興国への留学、世界トップレベル大学等に留学するプランは理系分野・複合・融合系人材コースで応募。

多様性人材コース

各々の分野において、今後活躍が期待できる学生が行う留学を支援。

［想定される人材例］

・スポーツ、芸術等の多様な分野で活躍が期待される人材

・起業や国際協力等を目指して活動をする人材

※分野・留学地域は問いません。

第９期生の選考結果

全体

申請人数
1,793名

採択人数
502名

倍率
3.57倍

	結果	当初想定	外大生合格者数9名
理系、複合・融合系人材コース	516名→229名（2.25倍）	220名	0名（0.0%）
新興国コース	202名→63名（3.21倍）	80名	6名（9.5%）
世界トップレベル大学等コース	292名→91名（3.21倍）	100名	0名（0.0%）
多様性人材コース	783名→119名（6.58倍）	100名	3名（2.5%）

第11期生の募集人数：400人

※応募は、在籍分野ではなく、留学計画の分野で応募してください。

コース	募集人数	計画対象	意欲
理系、複合・融合系人材コース（未来テクノロジー人材枠）	180名（未来テクノロジー人材枠 約50名）	理系分野、複合・融合系分野の計画対象	産業界を中心に活躍する意欲
新興国コース	60名	人文・社会科学系分野の計画対象	産業界を中心に活躍する意欲
世界トップレベル大学等コース	80名	人文・社会科学系分野の計画対象	産業界を中心に活躍する意欲
多様性人材コース	80名	全分野の計画対象	多様な分野で活躍する意欲

※うち1割程度を高等専門学校生とします。

※大学全国コース、大学オープンコース（1割程度）合わせて400名の募集となります。詳細は、各募集要項をご確認ください。

第11期生　派遣留学生の要件

①日本国籍を有する学生又は日本への永住が許可されている（永住権）学生

②本制度で実施する事前・事後研修及び留学生ネットワークに参加する学生

③日本の大学等において、卒業又は学位取得を目的とした課程に在籍する学生

④日本の在籍大学等が派遣を許可し、留学先機関が受入れを許可する学生

⑤日本学生支援機構の第二種奨学金に掲げる家計基準を満たす→「大学全国コース」
家計基準を超える→「大学オープンコース」（直近の所得で判断）
※学部生と大学院生で基準が異なります。2019年4月1日時点での身分で判断します。

⑥留学に必要な査証を確実に取得し得る学生

⑦留学終了後、日本の在籍大学等で学業を継続又は学位を取得する学生

⑧平成31年４月１日現在の年齢が30歳以下である学生

⑨インターンシップ等での報酬や他団体等から留学のための奨学金を受ける際には、その平均月額が、本制度による奨学金の支給月額を超えない学生

⑩本制度の第1～9期派遣留学生でない学生

第11期生 留学計画の申請要件

①2019年8月10日から2020年3月31日までの間に留学が開始される計画。
　留学開始日は海外に渡航した日ではなく、授業や実習の開始日のこと。
　なお、日本で開催される事前研修に参加しないと留学を開始できませんので、注意してください。

②**留学期間が28 日以上2年以内（3か月以上推奨（「海外初チャレンジ応援枠」は除く））の計画**
※支援期間が13か月以上となる計画の支援人数は、支援予定人数全体の1割を上限。

③留学先における受入れ機関（以下「留学先機関」という。）がそれぞれの留学開始前までに確保できる計画（応募時点では、受入先未定でも可。）

④在籍大学等が、教育上有益な学修活動と認める計画（教員の確認要）

⑤留学の目的に沿った実践活動が含まれている計画
　※語学留学のみの計画は、支援の対象になりません。

⑥留学先の受入先機関が外務省の発出する危険情報（※）においてレベル2以上に該当する地域でないこと。（※外務省「海外安全ホームページ」参照）

第11期生 応募スケジュール

学内応募書類の提出期限

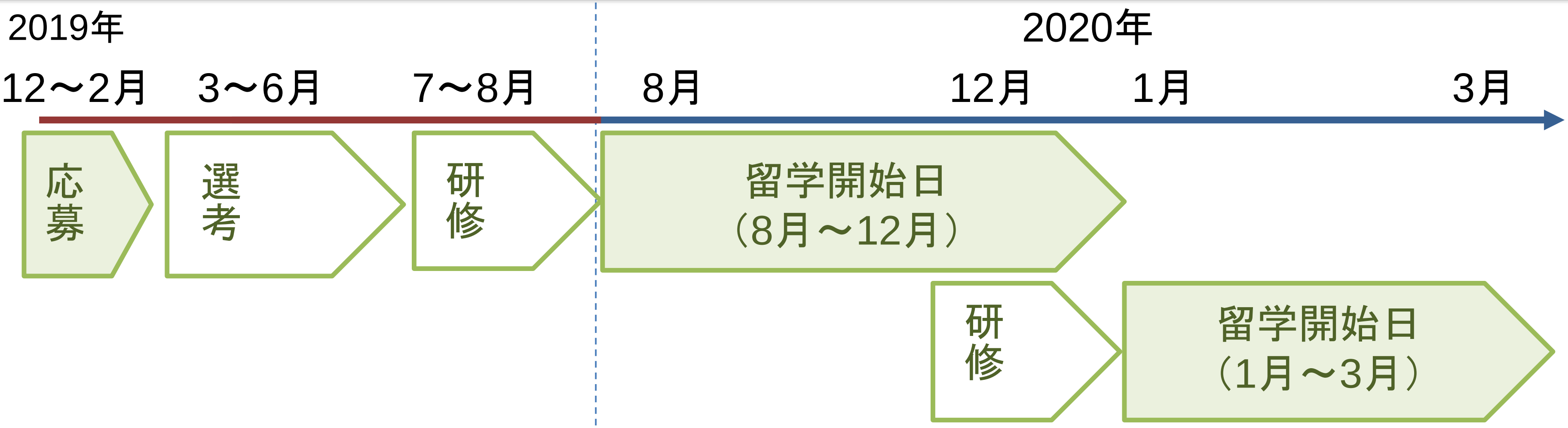
・家計基準チェック用紙： 2019年2月8日（金） 16:30
・留学計画書（オンライン申請）：2019年2月11日（月）23:59
・学内申請書： 2019年2月15日（金）16:30

書面審査：2019年3月中旬～4月中旬、結果通知：4月下旬

面接審査：2019年5月18日（土）、19日（日）[東京]、採否決定：平成31年6月中旬

事前研修：①2019年7月下旬～8月上旬 ②2019年12月
①は、8月～12月出発対象、②は、1月～3月出発対象

支援対象：2019年8月10日～2020年3月31日留学開始の計画



どのコースに応募するか

	コース	人数	計画対象	意欲
①	理系、複合・融合系人材コース	180名	理系分野、複合・融合系分野の計画対象	産業界を中心に活躍する意欲
②	新興国コース	60名	人文・社会科学系分野の計画対象	産業界を中心に活躍する意欲
③	世界トップレベル大学等コース	80名	人文・社会科学系分野の計画対象	産業界を中心に活躍する意欲
④	多様性人材コース	80名	全分野の計画対象	多様な分野で活躍する意欲

理系分野→①、文系分野→②～④
文系分野で、将来的に産業界（ビジネス系）で活躍したいと思う場合は、②or③
産業界以外で活躍したいと思う場合は、④

どのコースに応募するか

- 理系分野、複合・融合系分野における学修、研究やインターンシップ、フィールドワーク、実験・実習等の実践活動を行い、特に、環境・エネルギー分野、ライフサイエンス分野、情報通信技術分野、農林水産分野、ものづくり分野において新産業創出につながるような取組や実践活動を行い、産業界を中心に活躍する意欲のある学生。

  → 理系、複合･融合系人材コース

- 留学計画の過半の期間、今後成長が見込まれる新興国において、現地語（英語以外）の習得、異文化理解等の学修、研究やインターンシップ、フィールドワーク、ボランティア等の実践活動を行い産業界を中心に活躍する意欲のある学生。

  → 新興国コース

どのコースに応募するか

- 世界大学ランキングで上位100位以内に位置する等、諸外国におけるトップレベルの大学や研究所等において学修、研究やインターンシップ、フィールドワーク等の実践活動を行い産業界を中心に活躍する意欲のある学生

→　世界トップレベル大学等コース

・留学先がトップレベルである証明が必要（世界大学ランキング100位以内等）
（QS World University Rankings, Times Higher Education, 上海交通大学等）
・留学先での単位の取得が必須
【注意！】採用後に計画を変更する場合、応募時に留学計画書に記載した第2希望・第3希望の大学以外への変更はできません。

- 各々の分野や活動において、今後活躍が期待できる人材。
- スポーツ、芸術、政治、行政、教育、研究、医療、メディア、観光、ファッション、日本文化（古典芸能、和食等）等の多様な分野
- 起業や国際協力等を目指して活動している人材
- 復興支援活動をしている人材

→　多様性人材コース

実践活動が不可欠！

過去の外大生の実践活動の一例

・日系自動車メーカーでインターン（メキシコ）
・日本センターで日本文化紹介のボランティア（カザフスタン）
・難民支援・農村開発のNPOでのインターン（カンボジア）
・難民キャンプでのボランティア（ヨルダン）
・平和構築のNGOでのインターン（ルワンダ）
・日系企業進出のための市場調査【フィールドワーク】（インド、エジプト、カザフスタン、インドネシア）
・ファッションショーでのアルバイト（フランス）
・食糧問題に取り組むNPOでのボランティア（イギリス）
・日本語教育（ミャンマー、モンゴル）
・学生交流団体でのインターン（ベトナム）
・農場でのインターン（ファームステイ）（ベトナム、フランス）

実践活動先は自分で探すこと。なお、留学とインターン等をセットにした留学プランを提供する留学エージェントもあり。

留学プランの作り方

座学

実践活動

Ex.1

前後に実践活動

海外大学での授業受講や語学学習などの一般的な留学の後に実践的な内容を含むプログラムを活用した留学プラン →

【イメージ】

交換留学などの一般的な留学 ＋ インターンやボランティア等

Ex.2

並行して実践活動

既存の留学プログラム（交換OR私費）を活用するが、自主的に企画し、関係機関に働きかけを行い、授業がないタイミングでインターンやボランティアの実施する留学プラン →

【イメージ】

交換留学などの一般的な留学

（授業がないタイミングでの）
PBLやインターン・ボランティア等の実施

Ex.3

実践活動のみ

一般的な留学ではなく、個人が企画、手配を行う留学プログラム →

【イメージ】

PBLやインターン・ボランティア等の実施

留学プランに求められる要素

①大きな夢や留学への想いを、自分のコトバで！

留学で何をするかは自分次第。留学を決意した背景、目的、挑戦したいことを自分のコトバで伝えよう

②受け身の学びより実践・挑戦！

インターンシップやフィールドワークなど、**「社会との接点」**を作り
主体的かつ実践的な活動を盛り込もう

③ゴールを明確に！

達成したい目標、実現したいアウトプットをしっかり考え設定しよう

④留学経験を活かして何かを社会に還元しよう！

社会にどんな影響を与えたいのか、どんな形で動かしたいのか、考えてみよう。なぜトビタテ？

⑤プランを実行できる意欲と意思！

留学プランを実現するために必要な準備やスケジュールを調査、検討、熟考しよう。そして行動！

教育上有益な学修活動

募集要項５．　支援の対象

　(2)留学計画の申請要件

　　④在籍大学等が、教育上有益な学修活動と認める計画

留学計画が「教育上有益な学修活動」かどうか、必ず**留学計画書を指導教員等にチェックしてもらうこと。**

※提出書類「学内申請書（教員等による確認書）」に、指導教員等に署名、捺印をもらってください。なお、留学計画書の内容について、留学支援共同利用センターから直接当該教員に問い合わせを行う場合がありますので、ご承知おきください。

留学計画の実現可能性

募集要項６．(2) 4) 留学計画の実現可能性
「学修・実践活動の実現可能性が高い計画であること」

→受入許可証や受入機関との折衝開始がわかるメール文面のコピーなどがあると良い（加点対象）

※留学計画書に記載した計画については、基本的にそのとおりに実現できないと、採用取り消しや奨学金返金等の対象となり得ますので、計画は慎重に立ててください。

応募の流れ

①まずは、募集要項の確認！
公式HPから募集要項をダウンロード、留学計画書の記載事項などを確認

②オンライン申請画面でアカウントの作成
キーコード：126030（東京外国語大学）

③保護者の方から平成29年分もしくは平成30年分の所得証明書類を入手。
所得がある場合は、源泉徴収票、確定申告書の控え。所得がない場合は、市区町村役場発行の所得（課税）証明書。その他、必要に応じて、戸籍謄本の写し、兄弟姉妹の学生証等。

④「留学計画書」、「自由記述」を作成。必ず誰かに見てもらうこと！
可能であれば、受け入れ先機関から「受入許可書」を入手する。

⑤留学計画を指導教員等に確認してもらい「学内申請書（教員等からの確認書）」に署名、捺印をもらう。

⑥応募書類をそれぞれの期限（次のスライド）までに提出

※提出書類は、留学支援共同利用センターで確認し、適宜差し戻しを行います。

応募書類について

【所得証明・教員等による確認書の提出】（紙媒体）

①家計状況チェック用紙
②平成29 or 30年分の所得を証明する書類（源泉徴収票、確定申告書等）

期限：2019年2月8日（金）16:30まで（留学支援共同利用センターに提出）

→頂いた書類をもとに、家計基準の確認を行います。（①、②の書類はなるべく早めに！）
→確認結果（応募コース（全国／オープン））を通知します。

③学内申請書（教員等による確認書）の提出（指導教員等の署名、捺印済み）

期限：2019年2月15日（金）16:30まで（留学支援共同利用センターに提出）

【留学計画書の提出】（オンライン）

①オンラインシステム上で留学計画書を作成、提出**（キーコード：126030）**

期限：2019年2月11日（月）23:59まで
（注意！）期限を過ぎると提出できなくなります。

オンライン上で作成する前に、必ず大まかな計画を下書きをしたうえで、内容をよく見直して、最終的なものを作ってから、オンライン上で作成するようにしてください。

よくある質問

Q. 休学でも応募できますか？
→　休学でも応募可能。もちろん、派遣留学でも応募可能。
Q. 受入機関がない留学は対象になるか？
→　対象外。受入機関は必ず必要。
Q. 語学のみの留学は対象になるか？
→　対象外。実践活動が含まれればOK（語学＋実践活動、学部＋実践活動、実践活動のみ）
Q. 海外進学は対象になるか？
→　対象外。帰国後に在籍大学での学位取得が必須。
Q. 複数の国に行くことは可能か？
→　可能。
Q. 他の奨学金との併給は可能か？
→ トビタテ側はトビタテよりも月額が少なければ併給を認める。ただし、もう一方の奨学金も併給可能であることが必要。なお、JASSOの給付型奨学金との併給は不可。
Q. 計画の変更はできるのか？
→ 可能（留学前に1回、留学開始後に1回）。ただし、当初計画の留学の質を担保すること。
Q. 来年4月に大学院に進学予定の場合は家計基準判定は？
→ 大学院生の基準を適用。
Q. 来年4月に大学が変わる場合（日本国内の他大学に編入するケース）
→　応募申請は本学から。編入先の大学にもトビタテに応募する旨を連絡しておくこと。
Q. 新興国とは？
→ 主要先進国以外。特定の分野において今後急速に発展が見込める国であれば新興国であると見做す。

（仮）クィーンズランド州留学枠について

オーストラリア・クィーンズランド州留学枠については
実施の有無を含めて現在検討中です。

問い合わせ先

本制度に関する問い合わせ先

留学支援共同利用センター
（本部管理棟１階）
電話：042-330-5113
メール：ryugakushien@tufs.ac.jp

留学計画について個別に相談したい場合は
予約制の留学相談をご利用ください。

http://www.tufs.ac.jp/studyabroad/exchange_out/ryugakushien.html
（留学相談申込書は上記サイトからダウンロードできます。）